

殺ダニ剤  
**スターマイト**<sup>®</sup>  
フロアブル

作用点まで  
しっかり届く！

アスパラガスに  
使えるようになった！



殺ダニ成分「シエノピラフェン」配合

だから…

- 抵抗性ハダニにもきちんと効く
- 卵から成虫まで、ハダニの全ステージにしっかり効く

# 活性成分が作用点にしっかり届く

# スターマイト<sup>®</sup>

## 70777

農林水産省登録第22305号 有効成分:シエノピラフェン30.0% 人畜毒性:普通物\*

\*毒劇物に該当しないものを指している通称

## だから

### ① 抵抗性ハダニにも効く\*

殺ダニ成分「シエノピラフェン」が、ハダニ体内にある「電子伝達系複合体II」にしっかり届き、その働きを阻害するので抵抗性ハダニにも優れた効果を発揮。大切な作物をハダニの被害から守ります。

### ② 卵から成虫までの全ステージに効く

卵・幼虫・若虫・成虫とあらゆる生育ステージが混在して発生するハダニ類。全ステージに効くので、ハダニの様々な発生状況に対応できます。

\*既存の殺ダニ剤が効きづらくなったハダニ

## 殺ダニ成分「シエノピラフェン」が抵抗性ハダニにも効く

**Action 1**  
有効成分が作用点に届く



スターマイトは活性成分が作用点にしっかり届きます。

スターマイトの有効成分「シエノピラフェン」は、ハダニのミトコンドリア内にある「電子伝達系複合体II」にしっかり届き、ミトコンドリアの働きを強く阻害します。

あるナミハダニを用いた実験では、対照剤Aは効きませんでした。代謝酵素阻害剤(PBO)を混合すると、効き目が改善されました。つまり、このハダニは代謝能力によりA剤に対しての抵抗性を獲得しています。

一方、スターマイトは代謝酵素阻害剤の有無で効果の差はありません。

**スターマイトはこのハダニの作用点にしっかり届いています。**

**Action 2**  
有効成分がしっかり作用する



ミトコンドリアに届いた活性成分が「電子伝達系複合体II」の働きを強く阻害。このため抵抗性ハダニにも優れた効果を発揮します。

この作用性により、実用濃度で抵抗性のハダニにも十分な効果を示すのです。

	スターマイトフロアブル	B70アアブル	C70アアブル	D水和剤
実用濃度	150	150	50	50
LC50 (ppm)	2.3	>150	>50	>50

※抵抗性ナミハダニ雌成虫

■実用濃度で十分な効果 ■実用濃度で効果が不十分

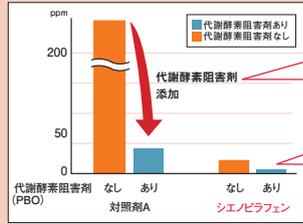
**だから抵抗性ハダニに効く**



スターマイト散布前のナミハダニ

スターマイト散布後、致死したナミハダニ

**代謝酵素阻害剤併用試験** ナミハダニ雌成虫 LC50



代謝酵素阻害剤(PBO)	対照剤A	シエノピラフェン
なし	200	200
あり	200	2.3

■代謝酵素阻害剤あり ■代謝酵素阻害剤なし

代謝酵素阻害剤添加

日産化学(株) 生物科学研究所 リーフディスクスプレー法  
PBO散布区には薬剤散布2時間前に500ppmのPBOを2.5ml/カップ散布

## 適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シエノピラフェンを含む農業の総使用回数
かんぎつ	ミカンハダニ	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	1回	散布	2回以内
	チャノホコリダニ						
りんご、なし、もも、ネクタリン、小粒核果類、おうとう、かき、いちじく	ハダニ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
ぶどう							
いちご	シクラメンホコリダニ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ピーマン、ししとう、なす	チャノホコリダニ						
きゅうり、すいか、メロン、しよくほうおぎ、はすいも(葉柄)	ハダニ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
しそ、しそ(花穂)	ハダニ類						
アスパラガス	チャノホコリダニ	2000倍	100~500ℓ/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
茶	カンザワハダニ						
食用ぎく	チャノホコリダニ	2000倍	200~400ℓ/10a	摘採7日前まで	1回	散布	1回
さく(葉)	ハダニ類						
さく、りんどう	ハダニ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	※1	散布	1回
みょうが(花穂)							
みょうが(茎葉)				発生初期	※2		

※1 散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。

※2 みょうが(花穂)の収穫前日まで。但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで。

## 使用上の注意事項(抜粋)

- 使用に際しては容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤との混用は避ける。
- ボルドー液との混用及び14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ、調節する。
- 本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の裏表に十分に散布する。

- 有袋栽培の洋なしに使用する場合、果実の葉斑が目立つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。
- ぶどうで使用する場合無袋栽培は果実肥大中期(あずき大)以降有袋栽培は果実肥大中期(あずき大)以降袋かけ前までの散布では、果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2020年1月現在の登録内容に基づいています。



## 日産化学株式会社

東京都中央区日本橋二丁目5番1号  
ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>  
お客様窓口 TEL.03-4463-8271 (9:00~17:30 土日祝日除く)